

1月29日（金）

おはようございます。

今日は雨天ですけれども少し暖かくなってきました。外で遊んで雨にぬれて風邪を引くことのないようにして欲しいと思っています。

仏教用語で、「随喜」というのがあります。随喜というのは、他の人が行ったいいことに対して、「いいことだなあ」と思うことです。自分が行ったいいことに対しても「いいことだなあ」と思うことです。清風では、徳健財ということを行います。その徳を簡単に積む方法があります。それは、他人のしたいいいことを、「いいことだなあ」と思うことです。そう思うことで、その人の積んだ徳と同等の徳を積めるということになるからです。

以前にもお話をしましたが、ビンビサーラ王が、お釈迦様とお釈迦様の弟子をぜんぶ呼んで、お昼のお食事とそして衣も用意して、「今日一番徳を積んだもののために押んでください」と言ったのです。王が自分のために押んでくれと言ったら格好悪いですから、一番徳を積んだもののために押んでくださいと言った。すると、貧しいおばあさんが、「うちの王さんは偉い人や、王さんすばらしい人や、王さんが長生きするように」と押んでいたら、お釈迦様が一番徳を積んだ人として、おばあさんの名前を言った。何日経ってもおばあさんの名前を言うので、おばあさんを国外追放にしたという冗談のような逸話があります。これはどういうことかいうと、おばあさんは確かに何もしてないのです。いいことをした王様に、「いいことしはったなあ」と思っただけです。しかし、それで瞬時にその人が積んだ徳と同等の徳を積むことができたわけです。これを随喜と言います。

この随喜には、二つの煩惱を抑える効果があります。二つとは、慢心と嫉妬心です。人がいいことを為したとき、自分が嫌いな相手でも、「この人はいいことした、これに関しては認めよう」と、こういうふう to 思えたら、そのときは、必ず相手を上に置いて自分を下に置いています。そういう意味で自分の慢心を抑えるという効果があります。また、私たちはよく嫉妬心を抱きます。「いいことをしたと褒められているけれども、あいつはたいしたことはない」と、羨みながら憎たらしい思いにとらわれてしまう。そうではなく、「ああ彼はいいことをしたな」と、思うことができたなら嫉妬しないですむわけです。しかもその人が積んだ徳と同等の徳を積むことができるということでもあります。

なぜこういうお話をしたのか。先日中学校の剣道大会がありました。その最後の試合は、中学校3年生の決勝戦でした。非常に激しい闘いでしたが、その決戦のあとに、両方の選手が出てきて、その道場の前で、お互いを讃え合ったのです。それを見て僕はすごく感動しました。すぐに水野先生に聞きました、「ああいうふうに指導をしているんですか。」と。すると、「いい

え、そんな指導はしていません」ということでありました。まるで両者が勝者のような感じでした。相手のところに行って握手し、互いの健闘を讃え合っている姿を見て、僕は「これこそまさに随喜だなあ」というふうに思いました。

そこでは、彼ら自身ももちろん徳を積むし、見ているわれわれも、見せていただいて、非常に幸せな気分になりました。まさに自利利他の道でした。自分のためにもなるし、そして周りの人間も、それを見て感銘を受けたわけですから。随喜というのは「ほんとだなあ」と思いました。

まじめに一生懸命生きる人も多い中、悪いことが多くて不愉快なことばかり報道される世の中ですけども、つい昨日も溝におちた子供をみんなで連携プレーして救ったという話があり、警察から表彰されたという報道がありました。そういうとき、「ええことしはったなあ」と思うこと。あるいは自分がしたいいことを、「ああ、ちゃんとええことしたな」と、こういうふうに自分のことを思い出すこと。これが随喜です。

この前の剣道大会の様子を見ていて、こういう雰囲気为学校がなってきたらいいなと感じました。ひとつ諸君等もぜひ参考にして日常生活のなかで生かしてもらいたいと思います。

今朝の話はこれで終わります。

(学校長)